

10月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

■ 古くなった樹木の伐採

生育が悪くなっていた古い樹木の伐採を行った。周囲の樹木に影響が出ないよう位置を確認しながら作業し、倒木の方向や安全面にも注意を払った。



■ 施肥

樹勢の維持と翌年の生育を見据えて施肥を行った。木の状態や畑の場所によって必要量が異なるため、園主の方に確認しながら適した量を均等に施すよう心掛けた。肥料が固まりにならないように散布の仕方も工夫した。



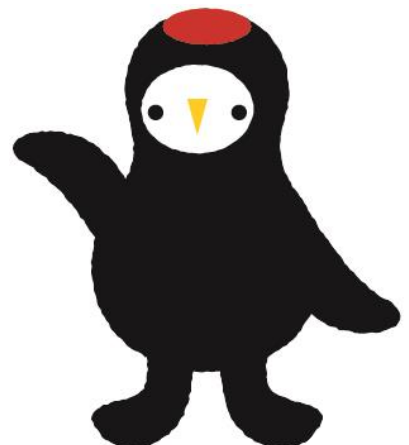
活動を行った感想など

チェーンソーで伐採作業を行った際、木くずが目に入り涙が止まらなくなる場面があり、安全対策の重要性を改めて感じた。次回はゴーグルの着用も検討し、より安全に作業できるようにしたい。

施肥作業は中腰の姿勢で20kg前後の袋を持ち運びながら行ったため、腰への負担が大きく、体力面の課題を実感した。今後は姿勢を意識したり、負担を軽減できる方法を考えながら作業していきたい。

今後の目標など

もうすぐ剪定作業が始まる時期になるため、昨年教わった内容を思い出しながら取り組み、スムーズに作業ができるようにしたい。剪定は翌年の樹の状態に大きく影響する重要な作業なので、基本を丁寧に確認しつつ、確実に身につけていきたい。



11月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

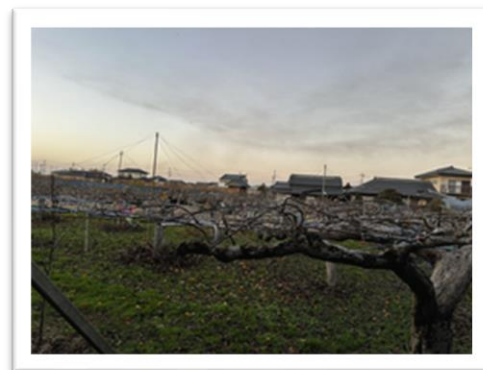
■ 剪定

梨の樹の不要な枝を切り落とし、樹形を整える剪定作業を行った。枝の混み具合や全体のバランスを見ながら、翌年の生育や作業のしやすさを考えて枝を整理した。どの枝を残すかを意識しつつ、基本を確認しながら作業を進めた。



■ 誘引

剪定後の枝について、棚に沿って適切な位置へ固定する誘引作業を行った。枝の向きや配置を考えながら、樹全体の形を整え、今後の管理や作業がしやすくなるようにした。



活動を行った感想など

去年に比べて、剪定において残す枝と切る枝の判断が早くできるようになり、作業全体の流れもつかめてきたと感じた。

誘引についても、枝同士の距離感や全体のバランスを意識しながら、無駄のない配置を考えて行えるようになってきた。太い枝の誘引では、切込みを入れてから捻るようにして曲げる必要があるが、そうした作業においても失敗することが減り、経験が積み重なっていると感じた。

今後の目標など

剪定と誘引について、判断の理由を意識しながら作業し、ただ作業をこなすだけでなく理解を深めていきたい。



12月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

■ 剪定・誘引

11月に引き続き、梨の樹の剪定および誘引作業を行った。不要な枝を切り落としながら樹形を整え、翌年の生育や作業のしやすさを意識して枝の配置を調整した。剪定後は枝を棚に沿って誘引し、全体のバランスを見ながら配置した。

作業内容自体は11月と大きく変わらないが、作業の流れを把握したうえで、一本一本の枝をより落ち着いて観察しながら進めることができた。



活動を行った感想など

11月と比較すると、剪定では判断に迷う時間が減り、作業をスムーズに進められるようになったと感じた。

誘引についても、枝同士の距離感や全体のバランスを意識しながら配置できるようになり、生育や管理作業に無駄の少ない樹形を考えられるようになってきた。

今後の目標など

剪定・誘引作業も折り返しを迎えており、今後はさらに気温が下がる中での作業が続くため、体調管理に十分注意しながら取り組んでいきたい。また、剪定ばさみを使用する作業が中心となるため、怪我や事故のないよう安全面にも配慮し、集中力を保ちながら丁寧な作業を心掛けていきたい。



1月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

■ 剪定・誘引

引き続き、梨の樹の剪定および誘引作業を行った。不要な枝を切り落としながら樹形を整え、翌年の生育や作業のしやすさを意識して枝の配置を調整した。

これまでやってきたことを確認しながら丁寧に進め、畑全体の約9割の作業が完了した。



■ 剪定・誘引

剪定や誘引と並行して、切り落とした枝を束ね、運搬車を使って園外へ運び出す作業を行った。

活動を行った感想など

剪定・誘引作業については、全体の作業量が見えてきたことで、終わりを意識しながら計画的に進めることができた。

枝の収集・運搬作業は、束ねた枝が重く、持ち上げたり運んだりする動作が多いため、気温は低くてもでも汗だくになった。

今後の目標など

引き続き体調管理に注意し、怪我のないよう安全に作業を進めていきたい。



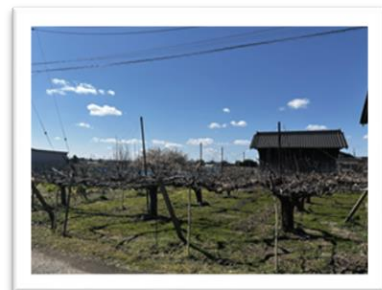
2月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

剪定

引き続き梨の樹の剪定作業を行い、不要な枝を切り落としながら樹形を整えた。枝の込み具合や全体のバランスを確認しながら作業を進め、2月中に園地全体の剪定作業を完了した。これまでの作業を振り返りながら、最後まで丁寧に仕上げることを意識して取り組んだ。



苗木の仮植え

来年の新規就農に向けて使用する梨の苗木を仮植えをした。シャベルを使って穴を深く掘り、苗木を植え付けた後、風で倒れたり折れたりしないよう支柱を立てて固定を行った。その後、苗木の生育を考えて肥料を施した。将来の栽培に向けて、自分が管理する苗木を実際に植える貴重な経験となった。



活動を行った感想など

剪定作業については、今季の作業を無事に終えることができ、全体の流れや作業量を改めて把握することができた。

苗木の仮植えでは、自分が将来栽培していく樹になることを意識しながら作業を行い、責任感を持って取り組むことができた。

今後の目標など

来年の新規就農を見据え、これまで学んできた作業を振り返りながら、より理解を深めていきたい。



3月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
梨栽培の担い手 石原 恭

行った主な活動

機械のメンテナンス作業

農作業で使用する機械について、オイル交換や各部の点検などのメンテナンスを行った。

シーズン中に不具合が起きないように、エンジンの状態や消耗部品の確認を行い、普段使用している機械の構造や状態を改めて確認する機会となった。



竹の伐採作業

梨の棚の支柱として使用するため、竹の伐採を行った。適した太さや長さの竹を選びながら作業し、運び出しやすいように整理した。

資材を購入するのではなく、自ら調達することでコスト削減にもつながると感じた。独立後もこうした方法を活用し、経費を抑えた運営ができるよう意識していきたい。



活動を行った感想など

機械のメンテナンスでは、日頃何気なく使用している機械も定期的な点検や整備が重要であると感じた。トラブルを未然に防ぐためにも、基本的な知識を身につける必要があると感じた。

今後の目標など

4月からは授粉や摘果作業が始まるため、これまでの経験を活かし、作業内容を改めて確認しながらスムーズに取り組めるよう備えたい。3年目、3回目の作業となるため、基本を押さえつつも、より精度の高い作業ができるよう意識し、一つひとつ丁寧に取り組もうと思う。

